

パートナーとしての立場で ～当事者のやりたいことを一緒に叶えるチーム・オレンジ～

新潟県認知症介護指導者 新野 直紀 キーワード: チームオレンジ 若年性認知症 居場所 役割

活動の概要(活動の主体:認知症地域支援推進員)

【活動目的】

本人の意思の尊重大切に、本人の自己決定に応じて当事者のやりたいことを一緒に叶える

【活動内容】

認知症の方も「やってみたいことがある」、「誰かの役に立ちたい」と思っている、病気や障がい等できないとあきらめてしまっている人が多いのではと捉え、当事者と一緒にはできないかと考えた。歩みは小さくても、1人の想いを一緒に考えていくことを積み重ねていきたい。でも、専門職だけでは難しい・・・地域のみなさんと、1人1人の想いややりたいことや願いをかなえる場所を作りたい。

【活動のきっかけ、背景】(指導者として、認知症地域支援推進員として)

認知症介護指導者の立場もあるが、それを活かしての認知症地域支援推進員としての活動が主である。利用者を「サービス」にあてはめることが多いその結果、若い世代の認知症の方、障がい者などは、やむを得ずサービスを利用し、サービスを利用しない人は、自宅に閉じこもりがちな生活に・・・でも、その方々の多くは、できること、やってみたいことがある。役割を求めている。でも、生かす場所や支援がないと感じた。

活動の経過と成果

【活動の経過】

大事にしていきたいことと！当事者、関わる人たちが水平な状態であることを目指したい。研修に参加しているみなさんは「支援する人」「助ける人」ではなく「協力者」ですし、当事者のみなさんも同様で「支援される人」「助けられる人」ではなく「協力者」の1人 →「パートナー」と呼ぶ。

・2020年9月9日(水)、9月16日(水)に認知症地域支援推進員3名で認知症サポーターステップアップ講座を2回に分けて開催し、チームオレンジについての説明も加えた。当事者の方々も参加された。

・9月30日(水)チーム立上げ、活動をすすめていく上での第一回目の話し合いを行った。

チーム名決定「チームオレンジプラスたいない」

・10月14日(水)チーム員で自分たちの想いを共有し、今後の取り組みの方向性を決める。まずは一人の当事者の「以前のようにおそば打ちたい、みなさんに食べてほしい」を実行してみる。

・11月11日(水)ももとの蕎麦屋を営んでいたが、疾病のためお店を閉じた方の想いを汲んで、現地の蕎麦屋を営んでいた場所を見学し本人への支援を明確にしていった。

【活動の成果】

・聴き取りから、認知症当事者の想いを共有することで、本人や家族、支える側と言う立場でなくパートナーとして水平な関係を意識し、活動できるようになってきた。

・認知症や疾病、障がい等をポジティブに捉えることができチーム員として生活意欲向上につながった。

・意思決定支援を尊重することは、個人の価値観に気付くことでもあり、本人の意思決定能力を固定的に考えずに、本人の保たれている認知能力を向上させる働きかけに繋がった。

・当事者であってもなくても、暮らしやすいまちづくりのために、「パートナー」として自分ができることについて共に考えることが出来てきている。

今後の展望

この取り組みを継続していくことがまずは大切で、動きながら市民や当事者とパートナーの意識を大切に地域で一人一人の想いを一緒に考えてやりたいことや願いを叶える場所にしていきたい。

そしてこの地域だけでなく、他の自治体でもチームオレンジのコーディネーター育成することで、チームオレンジの立ち上げ準備に関われればと思う。